



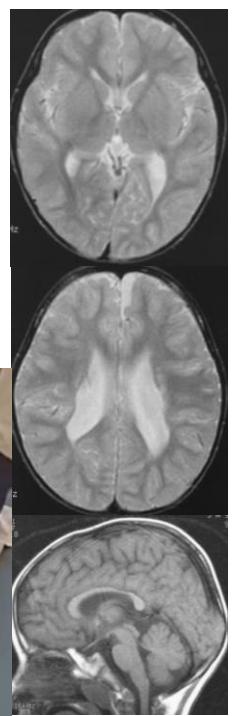
発達期脳性運動障害の 共収縮制御障害

常時筋収縮状態

早産白質障害の
共収縮制御障害

シャガール
「地中海風景」
(マルク・シャガール美術館)

1



- ・共同運動 共収縮が持続し遅い下肢運動となる *wrigthing*様
肘伸展位の側方肩回し→上肢W位
- 分離運動制限
共収縮制御障害 [常時共収縮強直収縮状態]←大脳白質病変
脳性麻痺の痙攣性麻痺に安静筋は存在しない
安静筋の他動的伸展の抵抗で定義される
純型痙攣性麻痺は常時共収縮強直収縮状態がある
- ・股膝屈筋優勢 股膝伸展はfullではない 加齢で強まる
股屈曲型

2

1



3



4

2





7



8

4



左側は共収縮制御障害 [常時共収縮強直収縮状態]
股屈曲外転型 分離運動制限(左)

9



- ・股屈曲外転外旋膝屈曲位で固まり、共収縮はあるが、速い非共同運動で伸展する。手の前出しが弱い。
舌出しあり
- ・**共収縮制御障害 [股膝屈曲優勢] ←大脳白質病変**
- ・股屈曲外転が優勢 股屈曲外転型

10



11



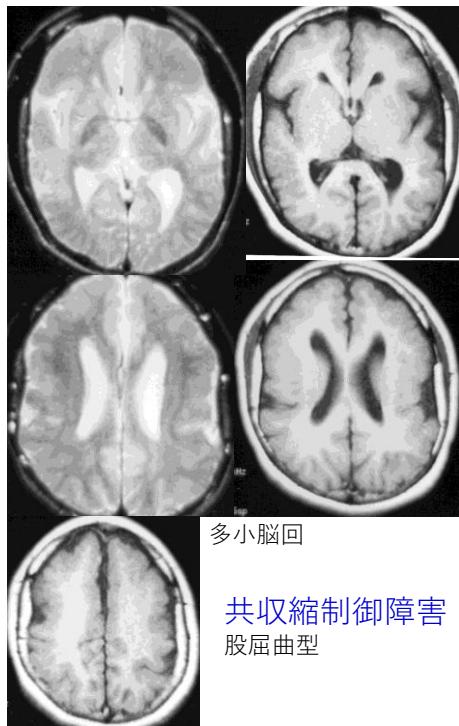
12



13



14



15



16

発達期脳性運動障害の共収縮制御障害

拮抗筋の抑制が不全であり、かつ主動筋が過剰収縮する状態を指す

- 運動開始前に、姿勢保持に不要な筋収縮がみられる（宙に浮く肢位、足底屈など）
*dystonia *spasticityのco-contraction
- 拮抗筋の抑制が不全なため、主動筋の運動開始が以下のような変容を受ける
 - 運動開始が遅れる
 - 反抗運動がみられる to-and-fro movement *アテトーゼ
 - 遅い運動速度となる（拮抗筋は運動中も緩まないと）常時共収縮強直収縮状態
 - 動き始めたら強く速い運動となる（拮抗筋が運動中に緩むと） *アテトーゼ
 - 多関節の連合運動が過大となる *アテトーゼ
- 運動終末時、主動筋の停止や拮抗筋の収縮が不全となり、以下のような変容を受ける
 - 意図した位置まで到達できない。このとき代償運動が起こる（体幹運動など）
 - 行き過ぎる

✓上記症候はさらなる類型化を要す